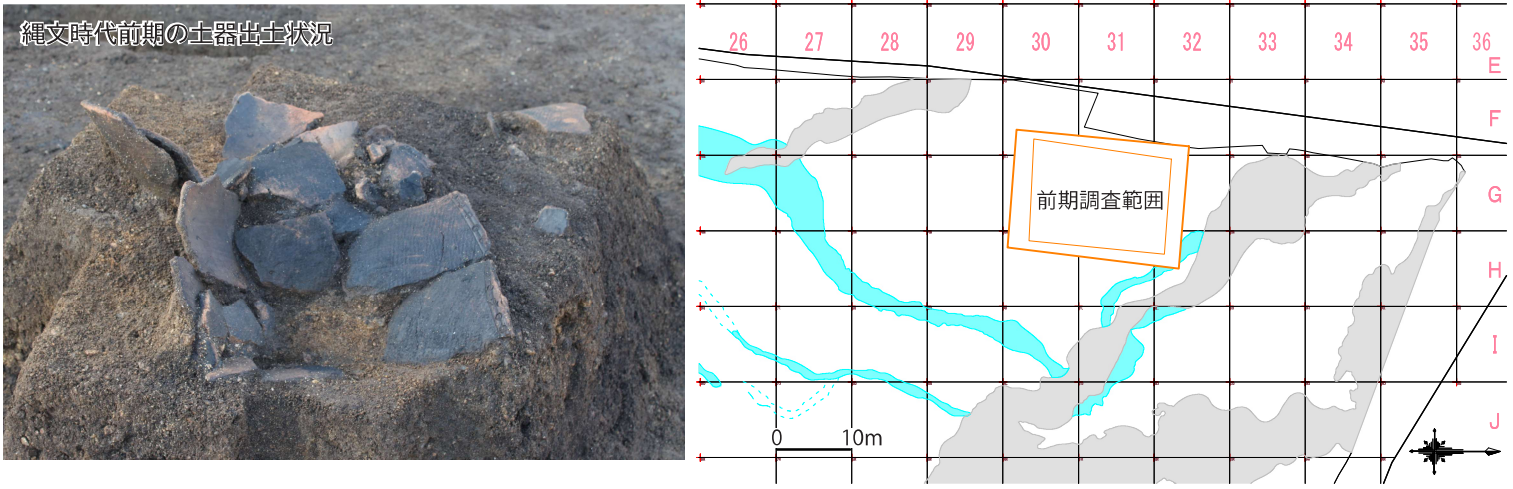


上野遺跡の縄文時代前期

今年度の第9次調査では、縄文時代後期より古い縄文時代前期の調査も約 240 m²を対象に実施しました。縄文時代後期の層から約 1.2m下の層から土器や石器が出土しました。縄文時代前期についてはこれまでも調査していますが、遺物が若干出土する程度で遺構が希薄なため、上野遺跡でどのような生活をしていたのかは明らかになっていません。しかしながら、この地域の歴史を語るうえで貴重な資料と言えます。



縄文時代の焼人骨

上野遺跡では焼人骨集積土坑以外にも焼人骨遺構を4基検出しています。第9次調査ではそのうちの1基について遺構を切取って、新潟医療福祉大学に運んで分析作業を進めています。

焼人骨集積土坑では、焼人骨が密集して意図的な配列を思わせるように出土していましたが、その他の遺構では焼人骨の間に土が堆積しているなどの違いがあります。

また最新の分析結果では土葬後に焼骨となった人骨や土葬を経ずに焼骨となった人骨などが混在していることが分かりつつあります。縄文時代後期の焼人骨は、複雑な過程を経ていた可能性があります。

上野遺跡の出土品

上野遺跡の出土品は膨大な数量で県内屈指の出土量です。これらについての整理作業も進めています。

土器は深鉢・鉢・注口土器・壺のほかに、3つ口の土器など特殊な土器も出土しています。とくに蓋と土器が合致する土器は新潟県内では初めての事例で、全国的に見ても大変珍しい資料です。

遺跡の近隣を流れる高根川の豊富な石材を利用した石器は、石鏃・石錐・石匙・石錘・凹石・敲石・石皿・磨製石斧・打製石斧があります。石器にはアスファルトが付着しているものもあります。

そのほかに土偶や耳飾・垂飾などの土製品、石棒・石刀・板状石器などの石製品も出土し、当時の生活や文化を知ることができます。



遺跡の概要

日本海沿岸東北自動車道の一部になる国道7号朝日温海道路事業に伴う上野遺跡の発掘調査は、平成29(2017)年度から継続的に実施しています。9年目となる令和7(2025)年度の第9次調査では、延面積で3,448 m²を対象に調査しました。これまで行ってきた縄文時代後期の調査に加えて、縄文時代前期の調査も実施しました。

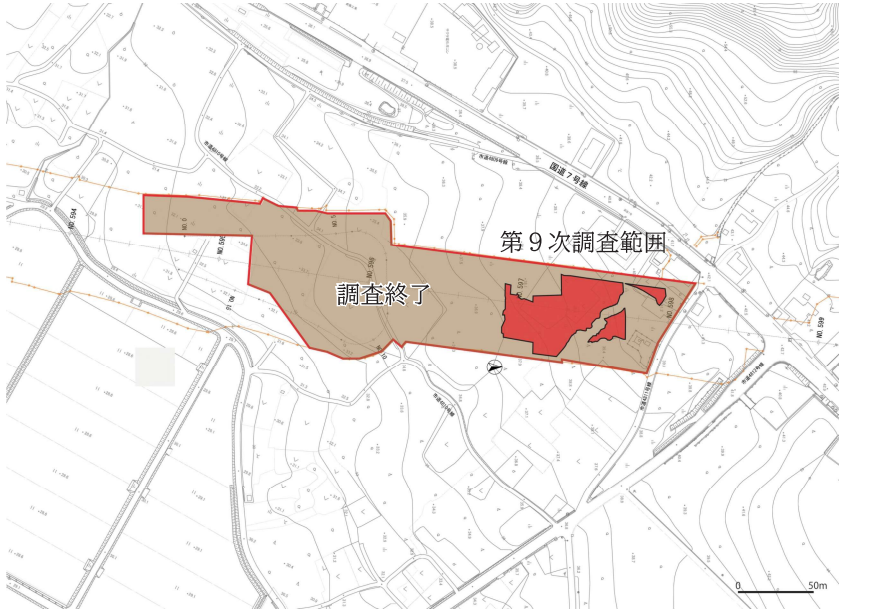
遺跡は、高根川右岸の扇状地に立地する縄文時代後期前葉の大規模集落です。これまでの調査で検出した遺構は約13,000基で、出土した遺物は約5,000箱と膨大な数量になります。この時期としては県内最大級の集落であったと考えられ、この地域の拠点的な集落です。

調査の成果

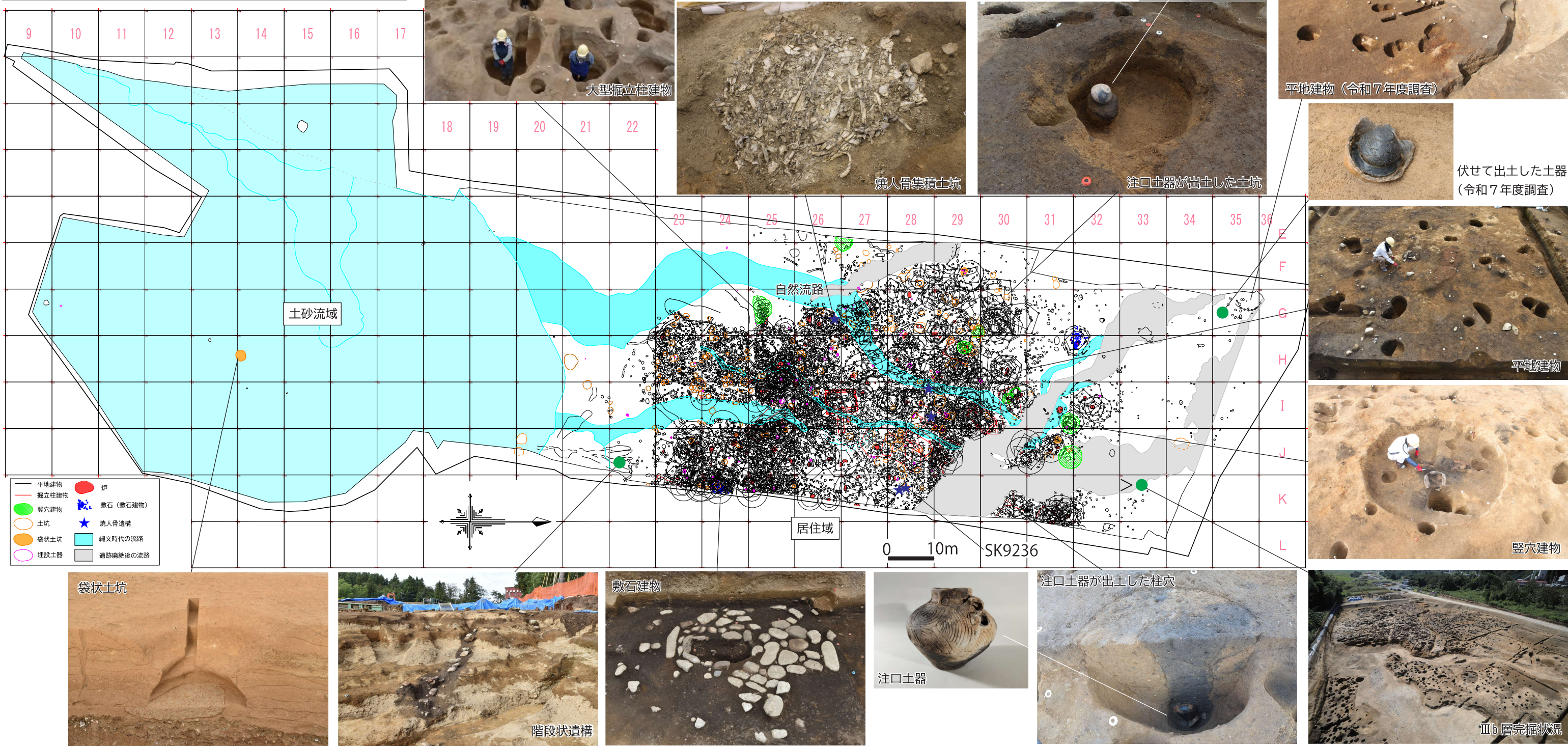
上野遺跡では、建物^{たてもの}が集中して建てられた「居住域」と土砂が堆積している「土砂流域」があります。令和7年度は令和5年度・令和6年度に調査した「居住域」の一部の範囲を継続して調査しました。「居住域」では、これまでに様々な形式の建物^{たてもの}（竪穴建物・掘立柱建物・平地建物・敷石建物）を約250棟検出しています。

第9次調査では調査範囲の北東側で新たに平地建物2棟を検出し、上野遺跡の集落が広がっていたことが分かりました。縄文時代前期の調査では土器や石器が出土しました。

調査成果をまとめる作業も進めており、上野遺跡の全体の様相^{ようそう}が分かりつつあります。



上野遺跡全遺構配置図



上野遺跡の集落の変遷

上野遺跡では総遺構数 13,365 基、そのうち 12,346 基が柱穴で、多くの遺構が建物に関わるものです。主な建物の数は竖穴建物 9 棟、掘立柱建物 27 棟、平地建物 237 棟、敷石建物 2 棟で（令和 7 年 10 月 14 日時点）、建物は平地建物が主体で、大型掘立柱建物もあります。そのほかに、土坑や階段状遺構、自然流路などを検出しています。

令和 6 年度の第 8 次調査では建物形態の重複関係を把握し、並行して存在する時期もあったと思われるものの、竖穴建物→掘立柱建物→平地建物と概ね変遷することが分かっています。集落を横断する自然流路では多量の遺物が出土し、流路埋没後の上面では石囲炉や建物の柱穴を検出したことから、自然流路を越えて集落が広がっていくことが分かっています。自然流路の壁際近くに「焼人骨集積土坑」があることから、この遺構も自然流路埋没後に構築されたと考えられます。

上野遺跡の集落変遷図

時 期	土 器 型 式	集落の遷り変わり	建物の遷り変わり					流路の埋め立て	焼人骨集積土坑	遺 構 検出
			建物形式	竖穴建物	掘立柱建物	大型掘立柱建物	平地建物			
縄文時代後期	三十稲場式新段階	集落のはじまり 流路の埋め立てが行われる。	竖穴建物主体							Ⅲb層下面
	南三十稲場1式段階	流路の埋め立てが完了。 広い平地がつくれる。	掘立柱建物主体							
	南三十稲場2式段階	集落の最盛期	平地建物主体							Ⅲb層中
	南三十稲場2式段階	集落のおわり								Ⅲa層下面
中葉	加曾利B式段階	小規模な活動	発見されず							

遺跡の地層

上野遺跡の地層は西側の山地から供給される風化花崗岩（真砂土）が主体です。後期の地層はⅢa層・Ⅲb層・Ⅲc層・Ⅲd層に区分でき、Ⅲb層を中心に後期前葉の遺物が多量に出土し、多くの遺構を検出しています。